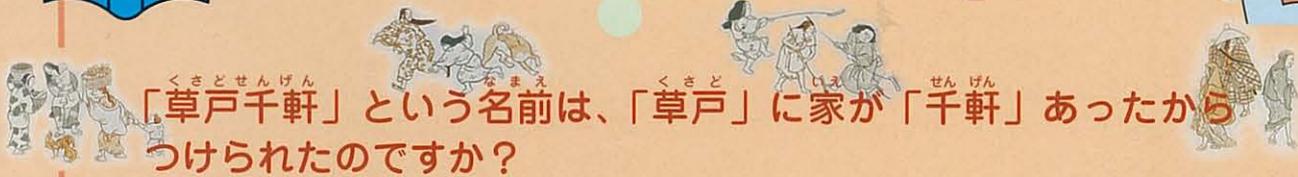




# こども歴史なぜなに? 相談室



## 「草戸千軒」という名前は、「草戸」に家が「千軒」あったからつけられたのですか?

「草戸千軒」の名前は、約250年前の江戸時代の記録（『備陽六郡志』）に初めて出てきました。しかし、このころ草戸千軒の町としての機能は失われており、以前のような町ではありませんでした。ですから、「草戸千軒」と名付けた人は、「草戸」の地名と、多くの家々があるという意味の「千軒」を結びつけ、かつての繁栄ぶりをイメージして、「草戸千軒」と呼



中心区画



短冊形区画

んだのでしょうか。

では、「千軒」というのは大げさな数字なのでしょうか? 「草戸千軒」が最も栄えていた南北朝時代の初めころ(約650年前)のことを考えてみると、そうとも言えないようです。

約30年間に発掘した面積は約7万㎡でしたが、草戸千軒の町の面積は、約100万㎡(広島市民球場の約42倍)はあったと推定されています。そして、発掘調査した部分は、北半部の中心区画と南半部の多くの短冊形区画に分けることができます。

中心区画には商業・金融業に従事する人々の屋敷や寺などがあり、その面積からは約40軒ほどの住居や倉庫などがあったと考えられています。また、短冊形区画は大きさなどに違いがありますが、約80軒ほどの住居があったと考えられています。

そこで、草戸千軒の町に何軒の家が建っていたかを、計算によって答を出してみましょう。これまでのことを計算してみると、

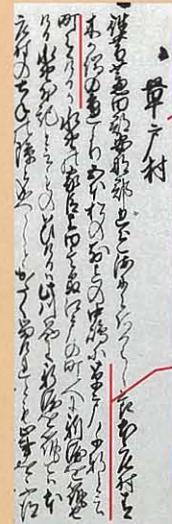
$$(40 \text{軒} + 80 \text{軒}) \times (100 \text{万} \text{㎡} \div 7 \text{万} \text{㎡} \times 1/2) = 840 \text{軒}$$

中心区画 短冊形区画 発掘面積の約14倍 町の密集部分はその半分(推定) となります。



草戸千軒の町並模型

840軒という数字はあくまでも推定ですが、もっとも栄えていたころの草戸千軒の町には、「千軒」の名に恥じない多くの建物建ち並んでいたと考えられます。



江戸時代の最初の記録『備陽六郡志』  
草戸村  
草戸千軒という町ありけるか